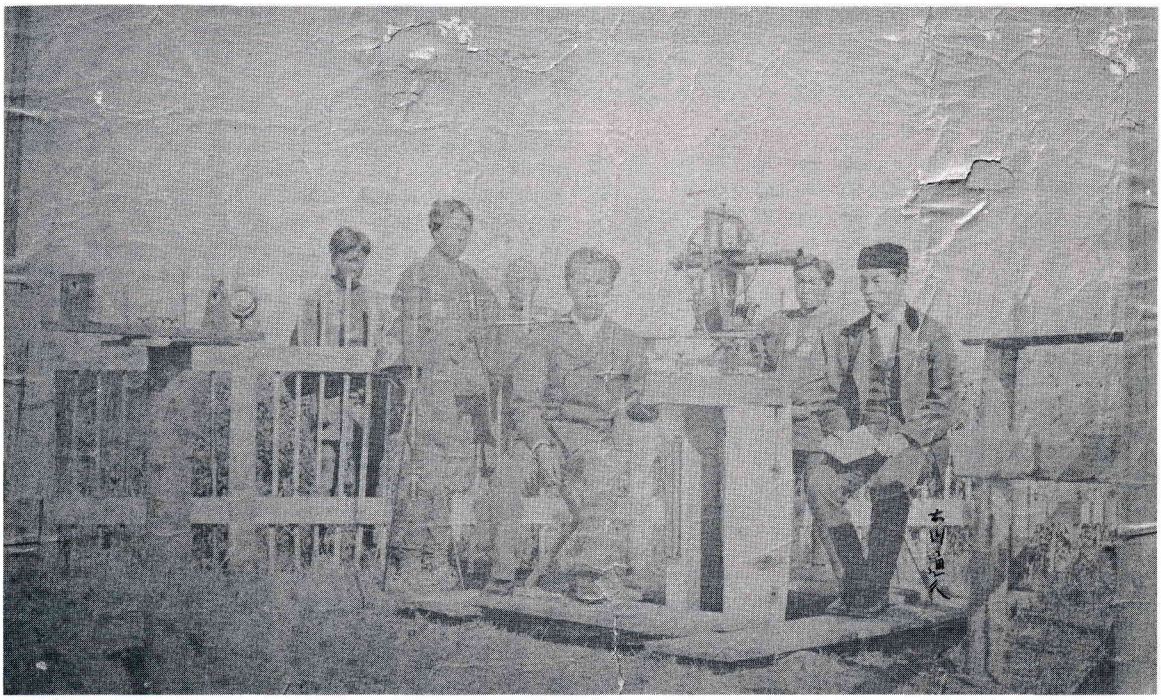
沼津市
明治史料館通信

1997. 4. 25（季刊 年4回発行）Vol. 13 No. 1　通巻第49号



測量器機を操作する大川通久（右端）
（大川幸作氏所蔵）

明治10年（1877）頃の撮影であることが付記されているが、だとすると内務省地理局勤務時代である。同省や同局の同僚には沼津兵学校の元教授・生徒が少なくなかったが、大川同様測量の知識・技術を買われた人々だった。

シリーズ
沼津兵学校とその人材 ◇46

兵学校記念碑の揮毫者 大川通久

沼津駅近くの城岡神社に立っている沼津兵学校記念碑は現在二代目の新しい石碑であるが、初代の碑は明治二十八年（一八九五）に建てられたものであった。兵学校の由来を説明した漢文は中根香亭（元兵学校三等教授）によるものであり、「沼津兵学校記念碑」という篆額は徳川家達（元静岡藩主）の筆になる。そして、中根の選文の書を担当したのが大川通久である。彼の経歴はこれまでほとんど知られていなかったが、ここで紹介してみたい。

大川は旧名を千作といい、沼津兵学校の第二期資業生だった人物である。生まれは弘化四年（一八四七）十一月十六日、沼津へ移住した明治元年には二十一歳であった。父は大川梅翁（和作）といい、幕府の御鳥見役をつとめた人。同家は通久で七代続いた幕臣であった。御鳥見役とは将軍の鷹場の巡見を担当した役職。通久も旧幕時代には御鳥見役見習並になったが、同職の廃止により陸軍士官に転任している。また洋学者近藤真琴に師事し、新知識の吸収につとめた。

兵学校では明治二年（一八六九）四月に資業生に及第し、在学中には成績優秀につき靴や羅紗などをたびたび下賜されている。また

明治5年(1872)10月5日
左より成沢知行・大川通久・芳賀可伝(大川幸作氏所蔵)
大川は陸軍兵学寮を退校した直後。3人とも沼津兵学校資業生出身。

明治6年(1873)4月
左より大川通久・蒔田某・矢橋裕(大川幸作氏所蔵)
大川は大蔵省土木寮に就職した直後。他の2人も同僚か。矢橋は沼津兵学校資業生の出身。

学校付の修業兵の訓練担当になるなど、生徒の中では指導的な立場にあった。その一方、寄留先である一等教授並渡部温に英語を学んでもいる。

明治五年（一八七二）五月、兵学校の廃止により上京、陸軍教導団に編入され無級専業生となるが、同年九月に退学、近藤真琴の世話で海軍兵学寮に入るがやはり中途退学した。そして翌年三月には大蔵省土木寮に奉職した。五年十月に撮影された写真には、沼津で同窓だった芳賀可伝（第一期資業生）・成沢知行（第二期資業生）といっしょのものがあり、仲間同志連絡をとりながらその後の就職先を選んだのかもしれない。ちなみに芳賀は内務省駅逓寮出仕、成沢は陸軍軍人の道を選んでいる。また土木寮ではやはり兵学校で同窓だった矢橋裕といっしょになっている。

大川は沼津で学んだ測量技術を生かし大蔵省・内務省・農商務省で仕事を続けていく。全国へ出張し測量にあたった。しかし明治二十六年九月には官を辞し、東京神田淡路町で清華堂という地図専門の印刷会社を開いた。兵学校記念碑の碑文の揮毫はその頃のことである。そのことからもわかるが、彼は理科系の技術者であったのみならず、書画・篆刻・茶道・華道・写真などに通じた文人・趣味人でもあった。使用した雅号は竹州・大子祐・好古庵・台北など。

明治三十年（一八九七）十一月十八日、五十一歳で亡くなった。実練院修道通久居士。

彼と彼の父梅翁が兵学校時代に書き残した「沼津兵学校人名簿」は兵学校の人的構成を知るための貴重な史料となっており、同家に保存されていたが、近年当館に寄贈いただいた。そして、今回の『沼津市博物館紀要』21において翻刻、紹介させていただくことになった次第である。

ぬまづ近代史点描 ㉝

大平村の国学者・原孝平

――沼津の国学・補遺として――

一九八八年、当館では「草莽の国学と明治維新」という企画展を開催し、沼津市域の無名の国学者たちを紹介した。その中に一人、氏名・村名はわかっていたが、どの家の誰なのかを特定できなかった人物がいた。明治二年（一八六九）十一月に篤胤の没後門人として平田家に入門した駿河国駿東郡大平村の「原高平」という人がそれであり、当館編の図録では「経歴不詳」とするほかなかった（『沼津の国学』、一二一頁）。

それから十年近く過ぎた最近、彼の素性が判明した。以下、彼についてわかったことをまとめてみよう。

平田の門人録（『新修平田篤胤全集』別巻）には「原高平」とあるが、「原孝平」が正しい。弘化元年（一八四四）五月十三日の生まれ、亡くなったのは大正四年（一九一五）六月十一日、七十三歳である。平田入門時の年齢が二十七歳だったというのにも符合している。

孝平は伊豆国田方郡加殿村（修善寺町）の豪農仁科伊右衛門安重（照武とも）の次男に生まれ、大平村の原家の婿養子となった。妻は満佐子といい、大平村の豪農原専助隆定の次女であった。この原家は安兵衛を襲名した有力な家の分家で、瑞平・専助を襲名、「新宅」と呼ばれた家である。近世後期、

原家を含め大平村には俳諧を嗜んだ者が多かったが、国学の浸透はそれほどでもなかった。孝平の国学入門には、むしろ実家の影響が大きかった。

孝平の実兄は仁科政右衛門栄正（一八三六～七九）といい、父同様村の名主をつとめ、旗本酒井壱岐守の勘定役にもなった人である（『静岡県現住者人物一覧』）。その兄は孝平よりも一足先、慶応元年（一八六五）五月九日に平田門下に入門していた。栄正と一日違いで入門した者に君沢郡北江間村（伊豆長岡町）の浜村半右衛門義恭がいたが、浜村家は栄正・孝平の母久仁子の実家であり、義恭は従兄弟にあたると思われる。つまり、血縁・姻戚関係を通じて兄弟・従兄弟同志で国学門人となっているのである。

しかし彼らの姻戚の中でももっとも重要な役割を果たしたのが、『増訂豆州志稿』の編者で伊豆を代表する平田国学者、君沢郡小坂村（伊豆長岡町）の萩原正平（一八三八～九一）であった。正平の妻奈加子（一八三九～一九一八）は仁科家の出で、栄正の妹、孝平の姉であった。すなわち孝平たちは萩原と義兄弟の間柄だった。文久三年（一八六三）入門の萩原は伊豆の平田門下では先輩格であり、栄正・義恭・孝平の入門にあたってはいずれも紹介者として名を添えている。

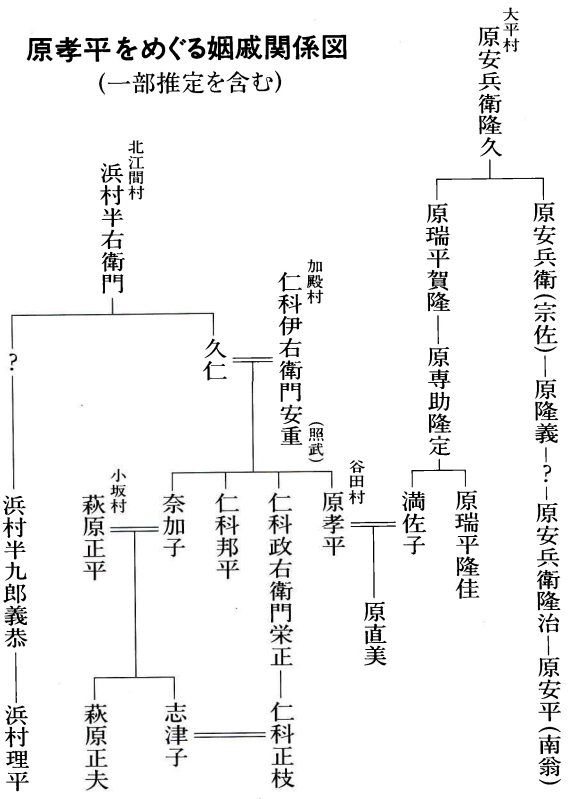
さて、原孝平は明治八年から十年にかけては韮山の龍城学校で三等授業生として教鞭をとっていたことが知られる（『韮山町史』第七巻、四三一頁）。明治十二年（一八七九）に君沢郡谷田村（三島市）に移住、以後同地で暮らした。妻の実家「新宅」の地主としての所有地が同村にもあったため、土地を分けてもらい分家したのである。自宅にはよく人を招き歌会を開いていたという。彼と妻満佐子の墓は三島市谷田の長泉寺にある。なお、息子の直美は大正期に錦田村長をつとめている。

〈協力者・参考〉

原美雄氏、小川近氏、原武雄氏、原家墓碑、仁科家墓碑、萩原家墓碑など

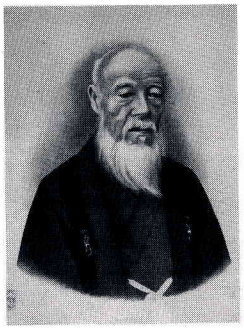
原孝平をめぐる姻戚関係図

（一部推定を含む）



◀原孝平旧蔵　平田篤胤肖像（原美雄氏所蔵）

平田篤胤の後継者銕胤は、篤胤の肖像画を全国の門人たちに頒布したらしい。持田穂平次・富士萬ら沼津市域の他の門人宅にも同様の肖像画が残されている。



▶原　孝平肖像（原美雄氏所蔵）

お知らせ欄

◎沼津市明治史料館史料目録19・20の刊行

史料目録21『日吉・高田・沢田区有文書目録』（B5版・八六頁・頒価八〇〇円）、20『西沢田平松家・東沢田樋田家文書目録』（B5版・一八四頁・頒価一〇〇〇円）。資料検索にご利用下さい。

史料目録を刊行する意義

①収蔵している史料を公開するための手段であること。

博物館は展示だけがすべてではありません。展示していない史料についても利用者にその存在を知らせ、閲覧に供することが必要です。そのための検索の方法として目録が必要なのです。

②史料を寄贈・寄託して下さった方への責務として。

史料の寄贈者、寄託者に対してはお礼の意味も含め、受贈・受託史料の明細をお示しする必要があります。

このように史料目録の刊行とは、史料保存機関にとっては最低限しなければならないサービスでありマナーなのです。史料の整理・目録作成は地味で目立たない仕事ですが館の重要な機能として位置づけ今後も取り組みます。

◎沼津市博物館紀要21の刊行

体裁：B5版　一〇二頁
頒価：一〇〇〇円
内容：樋口雄彦「沼津掃苔録」、同「史料紹介　沼津兵学校人名簿」、瀬川裕市郎「堅魚木簡に見られる堅魚などの実態について」、笹原芳郎「箱根西麓下原遺跡の分析」

◎ビデオ「銃後の沼津」の制作

館ロビーで放映しているビデオに新たに「銃後の沼津」が加わりました。昭和十五年（一九四〇）に出征兵士の慰問用に制作された映画フィルムをもとに、解説を付け加え編集したものです。

◎ゴールデンウィーク中の開館

休館日は4月28日（月）、4月30日（水）、5月6日（火）です。これ以外の日は開館します。

◎5月19日は無料開館日

5月19日（月）は江原素六の墓前で記念祭が行われます。当館では無料で展示室を開放します。

◎平成8年度・主な展示用資料貸出先と放送用情報提供先

NHK教育テレビ「ETV特集山口昌男が語る近代日本・もうひとつの知の系譜」（5月）、静岡第一テレビ・沼津垣浮世絵（6月）、テレビ静岡「しずおか誕生物語」（8月）、浜松市立博物館「庶民の旅」展（9月）、沼津税務署「税金展」（10月）、市立図書館「芹沢光治良展」「西浦展」（10月・12月）、平和祈念事業特別基金「戦争展」（1月）、市役所総務課「広島原爆展」（1月）、NHK教育テレビ「この町大好き」（2月）、SBSラジオ・海軍技研／愛鷹牧（2月）

◎平成8年度・刊行物への館蔵資料の写真提供先（未刊を含む）

『沼津市体育・スポーツ史』、『静岡県史通史編五近代一』、『静岡県史だより』第24号、『概説静岡県史』、『韮山町史第11巻通史Ⅱ』、『韮山町史の栞』第21集、『静岡県の誕生』、『歴史読本』第六八〇号、池田理代子『歴史の影の男たち』、『ふじのくに』45号、『芹沢光治良と沼津』、『正教時報』一二七三号、『熱海歴史年表』、『鎌ヶ谷市史』中巻、『わたしたちの静岡県』、『沼津市史史料編近代1』

◎館職員の人事異動について

4月1日・2日付で人事異動がありました。館長を兼務していた社会教育課長匂坂信吾に替わり、新たに大場章吉（前市立病院事務局長）が館長（嘱託・歴史民俗資料館長と兼務）に就任しました。今後とも変わらぬご支援をお願い申し上げます。

◎市史編さん係が移転しました

当館2階の資料閲覧室に事務所を置いていた市史編さん係は、4月21日、静岡県自動車学校内（沼津市東椎路四一九―一）へ移転しました。当館の資料閲覧室は以前のようにご利用いただけます。

沼津市明治史料館通信　第49号
編集・発行　沼津市明治史料館
〒410 沼津市西熊堂三七二―一
電話　〇五五九―二三―三三三五
FAX　〇五五九―二五―三〇一八